

## 『お話しタイム』

出雲市立朝山幼稚園（島根県出雲市）

【5歳児】

本園は、日常的に小学校との交流をしたり、合同保育授業をしたり、合同行事に取り組んだりしている。秋になり、5歳児と1年生が秋の自然物を使って一緒にオモチャを作ったり遊びを考えたりし、お店を開く「あきのわくわくらんど」をしよう」という活動を合同で行った。

1年生との活動の中で、可能な限り終末に『お話しタイム』を設定した。イラストカードを用いてその日の活動で感じたことや友達のよさなどに目を向け、言葉で友達に伝えたり友達の言葉を聞いたりする時間である。

### <『お話しタイム』を設けた理由>

- ・1年生も5歳児も一人1回は、自分の考えを言葉にして、相手に伝える場をもてるようにするため。
- ・自分の思いを伝えることが苦手な園児・児童に対して、相手に自分の考えを伝えることができたという達成感を感じさせるとともに、「話す」ということの抵抗感を少なくし、全体の場でも進んで自分の思いを伝えることができるようにするため。



### <方法>

活動→グループでの『お話しタイム』→全体での『お話しタイム』という同じ流れで回数を重ね、経験を積んでいった。また保育の活動の中で、『お話しタイム』で話したくなるような交流活動を企画したり、話す内容のヒントになるような言葉がけを意識して行ったりした。また、年長児・1年生とそれぞれが生活や学習の中で『お話しタイム』を行い、話したり聞いたりする楽しさや大切さを感じ取れる経験を積んでいった。

### <園児・児童が自分の考えをもちやすいようにするための工夫>

- ・文字の読めない園児にも分かるように、イメージしやすいイラスト入りのカードを使用した。
- ・「自分のこと…赤」「友達のこと…黄」「困ったこと…青」と、色からも内容をイメージできるようにした。
- ・前面掲示用とは別に、各グループに小さいサイズの同じカードを持たせた。グループでの『お話しタイム』で、園児・児童が話す内容に困った時は、カードを手にとらせたり選んだりすることで、教師や保育者がアドバイスしやすいようにした。

### <あるグループの『お話しタイム』の様子>

- 1年司会：お話しタイムを始めます。  
5歳A児：松ぼっくりが2つ当たって良かったです。  
1年司会：他にある人？これがある人？（イラストカードを示しながら）  
1年A児：〇〇ちゃんが、たくさん声を出してすごかった。  
1年司会：くじやさんのお客さんが、今日もいっぱいだった。  
1年司会：〔まだ発言していない5歳B児に対して〕1つ言ってみて。  
5歳A児：これ？これ？（カードを指差しながら）  
1年司会：これだったら、言える？（カードを持って）  
5歳B児：コマとかもらって楽しかった。



### <まとめ>

- ・5歳児は、普段はクラスの中だけで『お話しタイム』をしているため、初めて1年生と一緒にいる時は、1年生や周りの友達の様子を見ていて、遠慮したり恥ずかしさを感じたりする姿が多く見られた。しかし、何度か一緒に行うことで、合同の『お話しタイム』にも慣れていき、自分から手を挙げて発表する姿が増えてきた。
- ・何を話していいかわからない園児・児童も、カードがあることで、友達や教師の聞き取りにより話を引き出すことができた。また、園児・児童同士でカードを使いながら、アドバイスし合うこともでき、関わりをもちながら『お話しタイム』をする姿が見られた。また、カードを手にとって話すことや話し方を考え、自分なりに頭の中で整理することができた。カードを使った発表の仕方について1年生の発表を聞いて、年長児も真似して話せるようになった。

## みどころ

5歳児にとって、憧れの1年生の中で、自分の思いを受け止められたり、認められたりする経験が、自信につながっています。また、同じ目的に向かって取り組む中で一人一人の気付きや発見が共有され、人との関わりが深まっていくことは、子どもたちの経験を豊かにし、「科学する心」が育まれていくことが期待できます。